

4 維持保全に求められる重要な視点

(1) 機能維持と安全確保

本市のインフラ資産におけるこれまでの維持保全の取組は、施設の機能維持の視点に重きを置いたものとなっていた中で、平成25年5月に鈴が峯陸橋のコンクリート片落下事故が発生しました。

このため、インフラ資産の各施設の整備状況や、維持保全への取組状況を把握した上で、施設自体の機能維持を図る視点だけでなく、破損した場合の周辺の安全確保を図る視点に立って、全ての施設を対象に点検要領の策定・見直しを行い、適切な維持保全を推進することが重要です。

(2) 維持管理費の抑制

本市の財政は、大幅な改善は見込まれず、今後も厳しいものとならざるを得ない中、インフラ資産の急速な老朽化の進行により、維持管理費の増大は避けられない状況です。

このため、限られた財源の中、老朽化対策を進めるためには、維持管理費を抑制する視点に立って、予算執行の平準化等を図るなど、計画的な維持保全を推進することが重要です。

(3) 各施設の特性に応じた対策

維持保全に当たって、施設によっては、軽微な損傷のうちに補修等を実施することでライフサイクルコストの縮減に資するものがあります。

このため、インフラ資産の各施設の特性に応じて、最適な管理方法や管理水準を確保することを目指すという視点に立って、必要な施設にあつては長寿命化（更新）計画の策定・見直しを行うなど、効果的・効率的な維持保全を推進することが重要です。